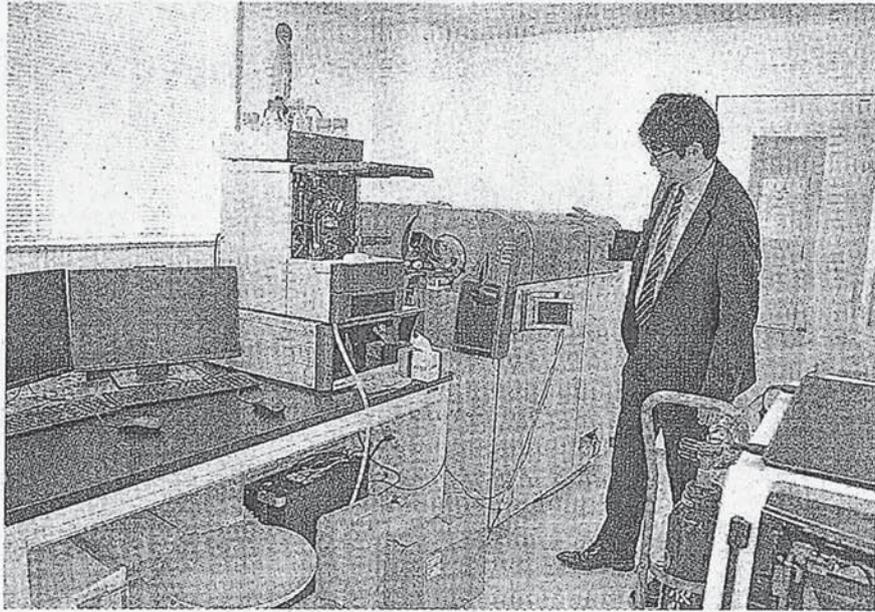


健康づくりの拠点に

弘大で「イノベーションセンター」開所式

データ解析や製品開発へ



健康づくりの拠点となる「健康未来イノベーションセンター」。所内にはスーパーコンピュータや質量分析装置などの最新機器が並ぶ

健康づくりの拠点となる弘前大学の「健康未来イノベーションセンター」の開所式が22日、弘大医学部キャンパスの同センターで開かれた。健康教育のための新型健診「啓発型健診」や、弘大が有する健康ビッグデータの解析、産官学が連携した製品・サービス開発の場として活用する施設で、地域の健康意識を高めると同時にイノベーション拠点として機能させることで、健康寿命の延伸や関連産業の振興による地域経済活性化も期待される。

（成田真由美）

弘大は2005年から継続する大規模住民健康診で培った「健康ビッグデータ」を有するほか、13年には国の革新的イノベーション創出プログラム「COI」（センター・オブ・イノベーション）の拠点となり、産官学の連携で短命県返上、健康社会実現に向けて取り組んできた。

センターは同プログラムの推進のためのもので、弘大が県、弘前市と共同提案した「革新的地域ライフイノベーション創造拠点」として、文部科学省の「地域科学技術実証拠点整備事業」に採択された。約8億円で整備し、今年4月に稼働。佐藤敬学長は「健康増進への取り組みは未来

永劫続く。基盤を育てていく必要があり、そのために大きな力となる拠点」と説明する。建物は2階建てで、延べ床面積840平方メートル。産官学民交流フロアとなる1階に新型健診プログラム開発室や交流スペースを備え、イノベーション創出フロアとなる2階には「健康ビッグデータ」を解析できるスーパーコンピュータIWA-KIや質量分析装置などの先端機器を設置、企業や他大学の研究者が自由に使えるオープンラボも設けた。弘大COIに参画する大手企業や関係者ら100人が出席した開所式で佐藤学長は「COIのプロジェクトのみならず、弘前大学の教育研究全般において精進していきたい」とあいさつ。来賓の勝野頼彦文科省科学技術・学術総括官、佐々木郁夫副知事、櫻田宏弘前市長の祝辞に続き、弘大副学長の若林孝一センター長が概要を説明し、関係者によるテープカットで開所を祝った。